



ほけんだより 7月号



令和6年6月28日
椋山女学園大学附属
椋山こども園

6月は例年より梅雨入りが遅かったり、急に30度越えの夏日になったりと体調管理が難しい気候でしたね。こども園では、乳児クラスを中心に手足口病やヘルパンギーナに感染する園児が多くみられました。今月から、本格的に夏の感染症が流行してくることが予想されます。ご家庭と園で連携をして、元気いっぱい夏を過ごしましょう。



手足口病



乳幼児の間で流行するウイルス性の夏かぜの一種で、飛沫感染します。今年は、全国的に流行しています。

手足や口の中に水ぼうや赤い発疹が出るのが特徴で、ひざやお尻に出ることもあります。

症状は3~5日で治まりますが、その後も2~4週間は便からウイルスが出るので、周囲の人に感染しないように注意しましょう。

手足口病は、1回かかれば終生免疫がつくタイプの感染症と異なり、ウイルスが複数存在するため、何回もかかることがあります。

ウイルス性のかぜのため抗生物質は無効で、自然治癒を待ちますが、発熱や嘔吐がある場合は症状を緩和する薬を医師に処方してもらいましょう。

口の中に水ぼうやが出ている間、お子さまに食欲がなければ、水分補給さえしっかり行えば大丈夫です。食欲があるようなら、冷たいスープなどを与えてみましょう。

高熱に注意! **夏かぜ**

夏かぜを起こすウイルスは、冬のものとは異なり、高温多湿を好むタイプです。せきや鼻水は少なく、肺炎などに進行することはまれです。夏に流行する主な病気に、プール熱、ヘルパンギーナ、手足口病などがあります。

- 高熱が出る
- 目の充血、痛みがある
- のどが赤くはれ、痛みがある
- 体に発しんが出る

これらの特徴があったり、いつもと様子が違うときは、必ず受診し、医師の診断を仰ぎましょう。

気になる虫刺され

乳児が蚊に刺されると、大人より反応が遅く、1~2日後に症状が出る場合があります。時間が経つにつれ、赤く腫れたり、水ぼうやができたりし、腫れる場合も大人よりも大きく腫れあがります。これは、虫刺されの経験が少ないために起こる激しい炎症反応です。刺された直後に洗って冷やし、薬を塗ってもよくならない時は病院で診てもらいましょう。